

令和8年度

公立高等学校入学者選抜
学力検査の分析結果

宮城県教育委員会

ま え が き

本報告は、令和8年度宮城県公立高等学校入学者選抜における第一次募集本試験（令和8年3月4日実施）の結果について、分析及び考察を示したものです。

公立高等学校の入学者選抜学力検査問題については、入学者の選抜に際し極めて重要な資料となることから、中学校学習指導要領の趣旨に即し、その実現に資する出題内容となっているか、中学校において育成することを目指す資質・能力の状況を適切に測ることができているかなど、これまでも、継続的な調査研究に取り組み、出題方法の工夫や改善に努めてきたところです。

また、入学者選抜学力検査は、義務教育段階の終わりまでに育成することを目指す資質・能力の状況を測ることができるものであり、中学校において学習指導の充実・改善を図るための重要な基礎資料として、当該検査の結果の精緻な分析は大きな意味があります。

これらを踏まえ、次の二点を目的として分析及び考察を進めました。

- 1 検査問題の妥当性を検証し、今後の内容・形式等の改善に役立てる。
- 2 受験者の学習成果の実態を明らかにし、県下中学校の学習指導上の課題を考察し、改善の指針を示す。

一方、高等学校においても、本報告に示すデータや考察は、中学校教育までの学習の成果の円滑な接続、生徒の実態に応じた指導計画の作成、指導内容や指導方法の工夫のための有用な情報であると考えます。

中学校及び高等学校においては、生徒一人一人が育成を目指す資質・能力を確実に身に付けることを目指し、カリキュラム・マネジメントの充実、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善などに取り組んでいるところですが、本報告を積極的に活用することにより、これらを一層促進し、中学生及び高校生にとってより質の高い、豊かな学びが実現されることを切に期待しています。

令和8年7月

宮城県教育委員会教育長 小 野 寺 邦 貢

目 次

I	受験状況	3
II	出題の基本方針	3
III	学力検査の結果（全日制受験者）	
1	総点	3
2	各教科の成績	3
3	各教科の得点分布	4
IV	各教科の分析	
1	分析の方法	4
2	各教科の分析結果の概況	5
	（1）国語	
	・出題のねらいと内容・結果の考察	6
	・正答率・無答率・得点率・その他	8
	・問題	9
	・正答表	17
	（2）社会	
	・出題のねらいと内容・結果の考察	18
	・正答率・無答率・得点率・その他	20
	・問題	21
	・正答表	29
	（3）数学	
	・出題のねらいと内容・結果の考察	30
	・正答率・無答率・得点率・その他	32
	・問題	33
	・正答表	41
	（4）理科	
	・出題のねらいと内容・結果の考察	42
	・正答率・無答率・得点率・その他	44
	・問題	45
	・正答表	53
	（5）英語	
	・出題のねらいと内容・結果の考察	54
	・正答率・無答率・得点率・その他	56
	・問題	57
	・「放送によるテスト」台本	65
	・正答表	69

I 受験状況

表 1 に今年度及び前年度の学力検査の全教科受験者数を示す。

表 1 年度別学力検査受験者数

年 度	全日制	定時制	計
令和 8 年度	12,092	343	12,435
令和 7 年度	12,910	371	13,281

II 出題の基本方針

中学校学習指導要領に示されている目標や内容を踏まえ、基礎的・基本的な知識及び技能並びに習得した知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を総合的にみることをねらいとした。また、各教科とも履修学年や分野・領域、難易度のバランス、問題の分量について配慮し、受験生の多様な能力を捉えることができるように工夫した。

III 学力検査の結果（全日制受験者）

1 総 点

全教科受験者の総点について、表 2 に度数分布表を、図 1 に相対度数分布図を示す。

表 2 総点の度数分布表

得点区分	令和 8 年度		令和 7 年度
	人数	割合(%)	割合(%)
0～100	210	1.7	2.3
101～150	934	7.7	7.2
151～200	1,660	13.7	12.7
201～250	1,997	16.5	17.5
251～300	2,170	17.9	19.5
301～350	1,966	16.3	17.1
351～400	1,732	14.3	16.0
401～450	1,234	10.2	7.4
451～500	189	1.6	0.3
計	12,092	100.0	100.0

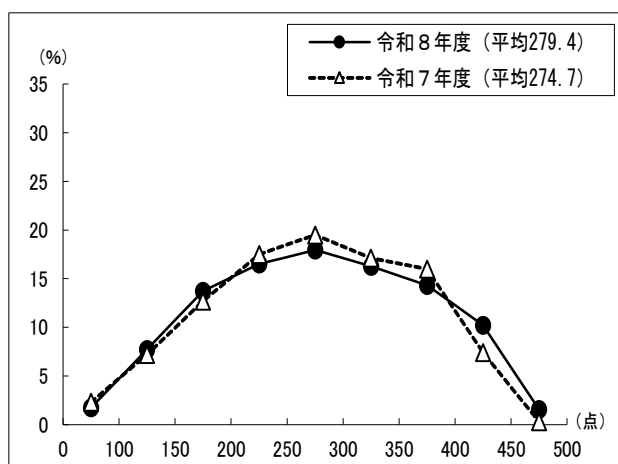


図 1 総点の相対度数分布図

2 各教科の成績

表 3 に各教科の受験者の平均点等と、合格者の平均点を示す。

表 3 各教科の平均点等

教科 区分		国語	社会	数学	理科	英語	総点
受験者	平均	61.8 (58.6)	60.5 (56.1)	50.2 (47.0)	58.3 (57.4)	48.7 (55.5)	279.4 (274.7)
	最高	94	100	100	100	100	481
	最低	0	0	0	0	0	42
	合格者平均	61.8	60.3	50.0	58.3	48.6	279.0

() 内は前年度の平均点

3 各教科の得点分布

今年度及び前年度の国語、社会、数学、理科、英語の得点の相対度数分布図を、以下に示す。

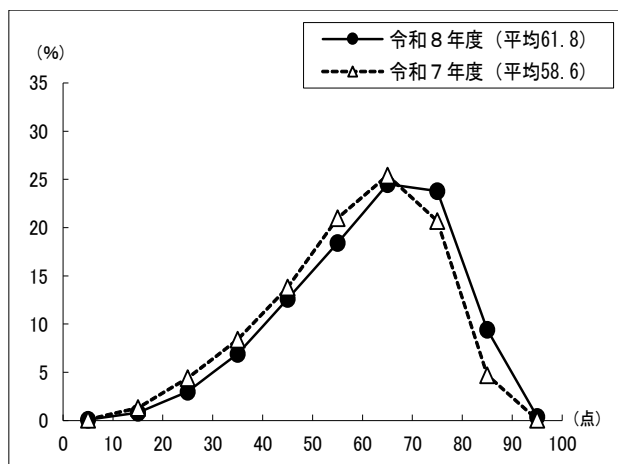


図2 国語

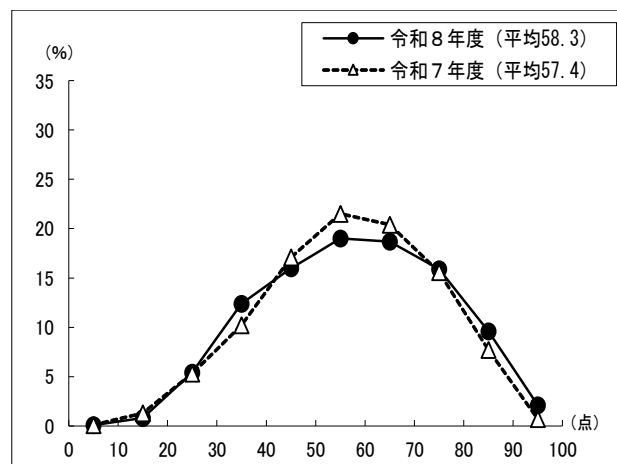


図5 理科

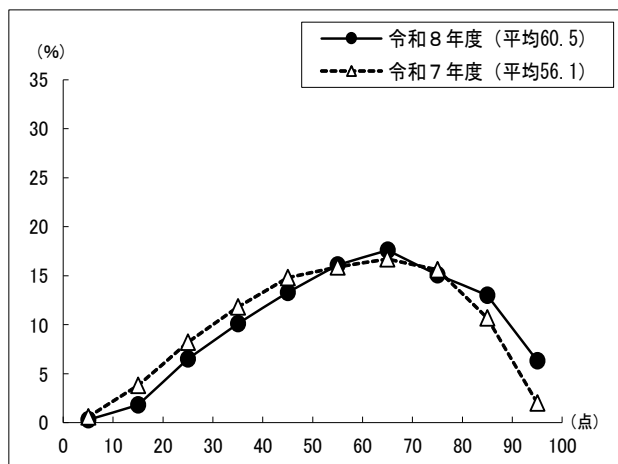


図3 社会

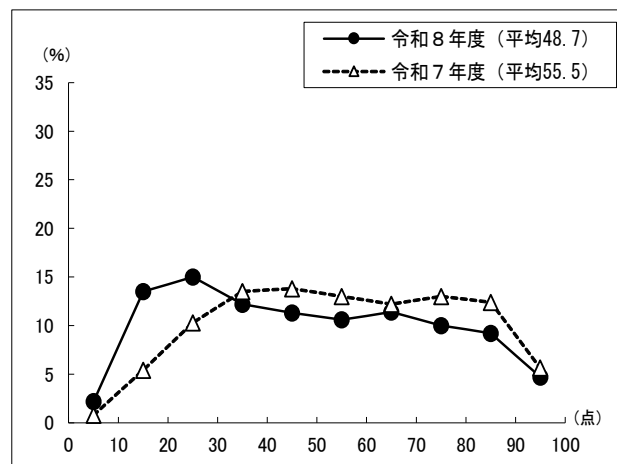


図6 英語

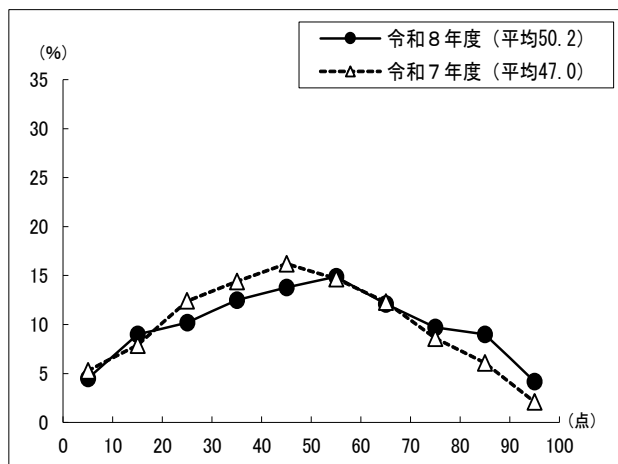


図4 数学

IV 各教科の分析

1 分析の方法

全教科受験者を対象にして、小問ごとの正答率（完全正答の割合）、無答率、得点率（配点に対する平均点の割合）を算出した。また、調査書総点を基に三つの階層に分け、それぞれの階層別の得点率を算出した。

さらに、誤答例・誤答傾向について詳細に分析を行うため、*標本を抽出して解答状況の確認を行った。

*標本の抽出について

全日制課程の学校・学科の中から学力検査総点の受験者平均点を基にして50校・学科を抽出し、さらに、調査書総点ごとのバランスに留意して合計400人を抽出し、標本とした。

2 各教科の分析結果の概況

国語 平均点 61.8点（前年度比 +3.2）

情報を整理しながら内容を解釈すること、根拠の適切さを考えて書くことに課題

学びの成果

- ・ 助動詞「られる」の意味を文脈から見分けることができる。
- ・ 描写を基に、登場人物の人物像を的確に捉えることができる。

課題

- ・ 複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することに課題がある。
- ・ 根拠を明確にしながら、自分の考えを書くことに課題がある。

授業づくりのポイント

- ・ 目的に応じて必要な情報を捉えて要約する活動を充実させる。
- ・ 書こうとする根拠が適切であるかを検討しながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する活動を充実させる。

社会 平均点 60.5点（前年度比 +4.4）

知識を活用して考察すること、歴史に関わる事象を、各時代の特徴を踏まえて捉えることに課題

学びの成果

- ・ 日本の諸地域や政治、現代社会、国際社会に関する基本的な事象が理解できている。

課題

- ・ 習得した知識を活用して、資料から読み取れる情報について多面的・多角的に考察し、適切に表現することに課題がある。
- ・ 歴史に関わる事象を、時系列に沿って整理したり、政治の展開や社会の様子などに着目して理解したりすることに課題がある。

授業づくりのポイント

- ・ 習得した知識を活用して、地図や文献、統計などの諸資料から情報を読み取り、分類・整理して表現する活動を充実させる。
- ・ 歴史に関わる事象の意味・意義や特色、事象間の関連を説明したり、意見交換したりする学習活動を積極的に取り入れる。

数学 平均点 50.2点（前年度比 +3.2）

与えられた条件を読み取り、数量の関係を式に表現すること、図形を多面的な視点で捉え、筋道を立てて表現することに課題

学びの成果

- ・ 数と式の領域における基礎的・基本的な計算の知識・技能が身に付いている。

課題

- ・ 問題場面において、与えられた条件を正しく読み取り、数量の関係を式に表現して活用する

ことに課題がある。

- ・ 図形を多面的に捉え、数学的に考察した内容について表現することに課題がある。

授業づくりのポイント

- ・ 自らの解決過程を振り返り、式やグラフなどを用いた根拠について数学的に説明する活動を充実させる。
- ・ 結論を導くために必要な事柄を明確にして、証明の過程を表現する活動を充実させる。

理科 平均点 58.3点（前年度比 +0.9）

実験結果を分析して、成り立つ規則性を捉え、量的な関係を見だし表現することに課題

学びの成果

- ・ 自然の事物・現象についての基本的な知識が定着している。
- ・ 観察、実験に関する基本的な知識や技能が身に付いている。

課題

- ・ 実験結果の分析から、成り立つ規則性を捉え、量的な関係を考察することに課題がある。
- ・ 観察実験等から見いだした関係性を、科学的な根拠を基に、表現することに課題がある。

授業づくりのポイント

- ・ 実験結果を分析する際に、条件を制御した実験により規則性を捉え、数値による分析により量的な関係を見いだす活動を確保する。
- ・ 探究の過程において、根拠のある仮説を設定させたり、仮説の妥当性を考えさせたりすることで、表現する活動の充実を図る。

英語 平均点 48.7点（前年度比 -6.8）

文章の構成や論理の展開を踏まえて要点を的確に把握すること、自分の考えとその理由を論理的に表現することに課題

学びの成果

- ・ 日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができる。

課題

- ・ 文と文との論理的なつながりを意識しながら読むことに課題がある。
- ・ 自分の考えとその理由を論理的に表現することに課題がある。

授業づくりのポイント

- ・ 構成や論理の展開をふまえて、要点を的確に読み取るためには、ディスコースマーカーに着目して読む活動などを取り入れる。
- ・ 聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを整理して伝え合う統合的な言語活動を充実させる。